

## 普通救命講習Ⅲタイムスケジュール

項 目	内 容	時 間
応急手当の重要性	・応急手当の目的・必要性等について	9 : 0 0 ~ 9 : 1 5
心肺蘇生法(座学)	・観察の手順 ・心肺蘇生法の仕方	9 : 1 5 ~ 9 : 3 0
心肺蘇生法(実技)	・接触から観察までの流れ ・心肺蘇生法(気道確保・人工呼吸・胸骨圧迫)	9 : 3 0 ~ 1 0 : 2 0
休 憩		1 0 : 2 0 ~ 1 0 : 3 0
AED使用方法	・AEDの使用方法 ・心肺蘇生法を含めたAEDの使用方法について	1 0 : 3 0 ~ 1 0 : 5 0
AEDを含めた心肺蘇生法 (実技)	・心肺蘇生法・AED使用方法	1 0 : 5 0 ~ 1 1 : 3 0
異物除去法 止血法 体位管理	・腹部突き上げ法(ハイムリック法) ・背部叩打法 ・直接圧迫止血法 ・回復体位	1 1 : 3 0 ~ 1 1 : 5 0
修了証交付		1 1 : 5 0 ~ 1 2 : 0 0

別表1の3（第4条関係）普通救命講習Ⅲ

1 到達目標	<p>1 心肺蘇生法（主に小児、乳児、新生児を対象）を救急車が現場到着するのに要する時間程度できる。</p> <p>2 自動体外式除細動器（AED）について理解し、正しく使用できる。</p> <p>3 異物除去法及び大出血時の止血法を理解できる。</p>
2 訓練実施基準	<p>1 講習は、実習を主体とする。</p> <p>2 1クラスの受講者数の標準は、20名程度とする。</p> <p>3 訓練用資機材一式に対して受講者は、5名以内とすることが望ましい。</p> <p>4 指導者1人に対して受講者は、10名以内とすることが望ましい。</p>

項目		細目	時間（分）
応急手当の重要性		応急手当の目的、必要性（心停止の予防等を含む）等	15
救命に必要な応急手当（主に小児、乳児、新生児に対する方法）	心肺蘇生法	基本的な心肺蘇生法（実技）	165
		反応の確認、通報	
		胸骨圧迫要領	
		気道確保要領	
	AEDの使用法	口対口（口鼻）人工呼吸法	
		シナリオに対応した心肺蘇生法	
		AEDの使用法（ビデオ等）	
	異物除去法	指導者による使用法の提示	
AEDの実技要領			
止血法	異物除去要領		
	効果確認	心肺蘇生法の効果確認	
合計時間		直接圧迫止血法	180

- 備考 1 2年から3年間隔での定期的な再講習を行うこと。
- 2 訓練用資機材を充実させることによって、受講者一人ひとりが訓練用資機材に接する時間が増えて効果的な講習を行うことができれば、各消防本部の判断により講習時間を短縮することを可能とする。